

## 愛知みずほ短期大学アクションプラン基本計画（2016～2020）の進捗状況

Y	P	D	C	A
未着手	計画	実行	評価	改善

○H28年度      ○H29年度      ○平成30年度      ○令和元年度

### 1. 基本目標

- (1) 学修者の主体性を培い、尊重する教育を目指す。
- (2) 正課及び正課外活動による多面的な教育活動により、総合的人間力を有する学生を育成する。
- (3) 地域貢献により、社会から支持される学園づくりを目指す。

### 2 教育の充実と研究活動

#### <教育>

- (1) 現存の3つのポリシーを見直し、策定し公表する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成28年度に全学、各専攻・コースの3ポリシーを見直した。

- (2) 平成28年度に策定した3つのポリシーと現行の入試選抜方法との整合性を点検・評価する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

現行の入試選抜方法との整合性を点検・評価できるシートを作成し、活用している。

- (3) 学修成果を可視化する方法について点検・評価し、必要に応じて、教育課程の見直しを図る。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

教育課程を見直し、平成30年度より基礎ゼミを導入した。また、学修成果を可視化するためアセスメントポリシーを決定した。

#### 令和元年度

- ・カリキュラムマップの刷新  
2019 シラバスに掲載されている、期待される学習成果・科目別一覧表（カリキュラムマップ）は、カリキュラムのチェックリストであったため、新たに、カリキュラムマップを作成した。なお、新カリキュラムマップは、ナンバリングの要素も含む。
- ・アセスメント・ポリシーの刷新  
アセスメント・ポリシーに目的を追加し、アセスメントの結果を、改善につなげるための仕組みを追加した。
- ・平成31年4月法令改正に伴う、保育養成新カリキュラムの構成
- ・再課程認定に伴う、教職専門科目の再編
- ・みずほ教養演習、生活学科必修科目となる。
- ・愛知みずほ短期大学養護教諭2種免許状取得のための履修細則整備（平成31年4月1日）
- ・愛知みずほ短期大学栄養教諭2種免許状取得のための履修細則整備（平成31年4月1日）
- ・愛知みずほ短期大学幼稚園教諭2種免許状取得のための履修細則整備（平成31年4月1日）
- ・愛知みずほ短期大学栄養士養成施設履修細則整備（平成31年4月1日）
- ・愛知みずほ短期大学指定保育士養成施設履修細則整備（平成31年4月1日）

- ・愛知みずほ短期大学 履修規程整備（平成31年4月1日）
- ・愛知みずほ短期大学 GPA 制度運用内規整備（平成31年4月1日）
- ・学生による授業評価（中間）アンケートの実施

令和元年度より、前・後期学期の中間でアンケートを実施し授業改善と、学生に受講姿勢の振り返りを促すことで、学習の促進を図ることとした。今年度は、専任教員、非常勤講師は希望者のみで実施する。なお、例年紙媒体で実施している学期終了後の『授業評価アンケート』を、今年度よりGoogleフォーム等を利用し、スマートフォンにて実施、アンケートの集計結果を教務委員会の担当者が集約する。

- (4) 近未来に入学してくる学生に相応しい主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の在り方を継続的に検討し、必要に応じて組織的な対応策を講じる。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成29年度に組織的導入について議論を行い、平成31年度にはアクティブ・ラーニングを実施している教員による発表を予定している。平成30年度にはルーブリックをシラバスに公表した。

#### 令和元年度

令和元年7月19日、アクティブ・ラーニングを実施している教員による、報告会を実施した。

- (5) 学生の学修成果として、より効果的な正課外学修の在り方を継続的に検討する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成25年度よりインターンシップを単位化し、各卒業後の職業を意識した業界関係者による講座や講演などキャリア教育を継続的に行っている。

#### 令和元年度

令和元年度、1年オフィス総合コースにてジェネリックスキル（プログ測定）を実施、学習成果の可視化、IR データを利用した教育改善の実践、IR データから見る学生の特徴把握ができるため、次年度から、プログを短大全体で実施する。

実施講義は、基礎ゼミ内とし、時期は学科ごとに検討する。

食物栄養専攻基礎ゼミ内にて、サガミとの商品開発を行った。

食物栄養専攻学生によるイチゴのデザートを考案し、2020.2月より期間限定商品デザート3品を、サガミ中根店にて販売、次年度は『社会実践』新規科目にて、更に検討を重ねる予定である。

現代幼児教育学科による、南知多ビーチランド内の『おもちゃ王国』にて、2020.2.23 劇を実施する。次年度は『社会実践』新規科目にて、更に検討を重ねる予定である。

- (6) チューター又は学修コンシェルジュ相互で情報を共有し、本学の特徴であるチュー

ター制度及び学修コンシェルジュ制度の真髓の發揮に努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

「気になる学生」などについての情報交換やチューターの役割を明確にするため、平成 29 年度より各学科、専攻、コースのチューター及びアシスタントチューター、キャリアセンター長でチューター会を構成した。原則、毎月教授会終了後に開催し、学生の状況を共有した。また、平成 31 年 4 月 1 日付け学長裁定により「愛知みずほ短期大学チューター会設置要項」を策定し、チューターの役割を明確にした。

#### 令和元年度

チューター会より提案のあった、FSD 研修会のテーマの一つとして『多様な学生対応について』の研修会を実施。

第 1 回 令和元年 8 月 26 日(月)

障害のある学生の支援 ー理解促進・普及啓発に向けてー

講師 田中良三特任教授 (本学 現代幼児教育学科)

第 2 回 令和元年 9 月 27 日(金)

発達障害のある学生への支援

講師 肥田幸子氏 (愛知東邦大学 人間健康学部教授)

第 3 回 令和元年 11 月 22 日(金)

「発達障害のある学生の就労支援 ～支援者の困りごととその解決に向けて」

講師 国立障害者リハビリテーションセンター研究所

障害福祉研究部 清野 絵氏

多様な学生の紛争解決のための第三者組織 (合同委員会) 設置

障害のある学生と大学等の間で提供する支援の内容の決定が困難な場合に第三者的視点に立ち調整を行う組織を委員会組織として発足する。

委員長 田中良三特任教授、金 仙玉先生を委員として推薦。

また、愛知みずほ短期大学における障害学生支援に関する基本方針について、支援体制、内容等を検討し関連する情報を公開に努めることとする。

#### <研究>

(1) 瀬木学園紀要の更なる充実を目指す。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

研究活動を促し、下記のとおり短大教員が投稿している。

年度	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
号数	第9号	第10号	第11号	第12号	第13号	第14号	第15号	第16号
論文数	8	6	3	14	3	6	2	3

(2) 教職員による学内の教育研究発表の機会を設定し、教職員相互の教育研究意識の高揚をはかり、教

育研究を促進する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成31年度に研究発表会の実施に向け計画中である。

#### 令和元年度

教育研究発表会の実施

第1回 短期大学 教員研究発表会 7月5日(金)

講演者 現代幼児教育学科 助教 加藤 望氏

テーマ 『一時預かり担当保育者に生起する葛藤とその背景』

第2回 短期大学 教員研究発表会 10月18日(金)

講演者 生活学科 講師 渡辺 美恵氏

テーマ 『被災地に派遣された養護教諭の支援活動に関する研究(1) 一派遣養護教諭が抱いた「思い」の分析から一』

3月13日(金)開催のFSD推進委員会にて、教育研究発表会についての総括と次年度に向けての反省点について、委員会内で検討を行った。

(3) 研究活動の不正行為を防止するため、監査体制を維持する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成28年3月15日付け理事長裁定「瀬木学園内部監査室設置要項」により内部監査室を設置した。

#### 令和元年度

研究活動の不正行為又は研究倫理、科研費獲得についての科学研究費助成事業研修会の実施

第1回 令和元年7月18日(木)

①科学研究費助成事業への申請について

講師：特任教授 二宮 皓氏

②研究倫理審査について

講師：特任教授 田中 良三氏(研究倫理審査委員長)

第2回 令和元年9月26日(木)

科学研究費助成事業について

講師：林 史 晃氏(日本学術振興会 研究事業部研究助成企画課 課長)

### 3 学生支援

- (1) 学生の卒業後における社会貢献の場の拡がりを配慮し、資格の取得及び検定試験への積極的参加にむけて支援の充実をはかる。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

幼稚園教育免許取得のため、平成28年度に現代幼児教育学科の開設準備を始め、平成29年度に認可を受け、平成30年度より設置した。また、オフィス総合コースにおいてはオフィス総合コース充実委員会を立ち上げ、取得できる資格の種類を増やした。

社会人に向けて、平成30年度より専門教育訓練給付実施校として、栄養士、保育士の資格支援を行っている。

#### 令和元年度

『管理栄養士国家試験受験対策講座』

管理栄養士を目指す卒業生を対象に、『管理栄養士国家試験対策講座』実施

『養護教諭教員採用試験対策勉強会実施

履修証明プログラムの実施（令和2年度より実施予定）卒業生及び在学生に向け実施する。

- (2) 資格を断念した学生へのキャリア形成に対し、支援の在り方を検討し、実施する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

キャリアセンターにおいて、各コース教員と協働し、学生本人と面談し今後のキャリア支援について一人ひとり考えさせている。「大学の学びとキャリアⅠ・Ⅲ」の授業内での進路再構築や「インターンシップ」（自由応募型）の奨励を行い、職業観の醸成を務めている。また、各コースで国家資格や教員免許を取得しないことを選択した学生へのキャリア形成について、引き続き検討が行われているが、今のコース連動型の早期支援体制を維持しつつ、免許取得者の幅を少し広げていく方向の検討を進めている。

#### 令和元年度

キャリアデザイン内にて（保育系就職ガイダンスの実施）

キャリアデザイン内にて（教職等資格辞退者への支援）

基礎ゼミ（各学科、専攻、コース）にて就職面接対策などの実施

- (3) 就職活動の支援を更に充実する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

下記の就職支援を行っている。

1. 学内企業説明会（3月、4月、5月、10月）年4回実施 計35社参加及び学内1次試験実施  
会社増加
2. 学生相談強化（12月末1057名：昨年度3月末1145名）し、来室者増加
3. 卒業生就職相談会実施（11月18日：卒業生42名参加：昨年度実績なし）
4. 文章作成講座実施し、中日新聞「発信」欄にて2名掲載（昨年度掲載実績なし）
5. 1年生保護者及び入学者予定保護者向けの初の「就職ガイダンス」実施予定（2月）
6. 現代幼児教育学科学生特化の就職支援（夏期集中）
7. 毎週金曜日 基礎学力補充講座実施（4, 5限目）
8. 春・夏の就活プログラム、キャリアアップセミナー、インターンシップ自由応募型、業界セミナーなど実施

#### 令和元年度

9. リタリコ、くるくる（就労支援会社）月1回来校、働くことについて多様な学生を支援している。

(4) 入学時（入学の動機等）と卒業時（満足度）にアンケートを実施し、学生支援にフィードバックする。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成 28 年度から入学動機等アンケート、進級時及び卒業時に満足度アンケート調査を行い、教授会に報告している。その結果、アンケート項目の見直しを行い、「人・組織・施設」の視点で改善をしている。

**令和元年度**

平成 30 年度学生満足度調査を刷新（短大生調査：短期大学基準協会のアンケート内容と重複する内容の検討等）、本年度は、学生・厚生委員会内にてアンケートを更に吟味し、本学の実態に沿った内容に修正をした。

4 教育・研究環境の整備  
法人規模で実施

5 社会貢献

(1) 健康志向に沿った学園共通の産学官連携の健康づくりを目指し、全学的に活動する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

本学として、健康づくりに貢献する「みずほヘルスセミナー」を下記のとおり開催した。

年度	回数	月日	演題	講師	参加者
2016					
2017					
2018	第1回	6/23	縄文時代の食生活	水野 早苗先生	20名
	第2回	7/7	歌って、奏でて、心つないで	原 友美先生	33名
	第3回	10/6	認知症予防運動をやってみよう	伊藤みどり先生	30名
	第4回	11/17	転倒予防のためのボールで楽しく体操	山根 基先生	26名
2019	第1回	5/18	身体をほぐしてキレイに歩こう	安藤めぐみ先生	20名
	第2回	7/6	「健口」体操のススメ	渡辺 美恵先生	26名
	第3回	11/16	古墳・飛鳥・奈良・平安時代の食生活	水野 早苗先生	28名
	第4回	11/30	60歳からはじめる絵本の読み聞かせ	加藤 望先生	22名

(2) 大学・短大・高校の特色を活かし、個々の組織としての地域貢献活動（瑞穂区）に努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

年度	連携先	活動名	内容
2016			
2017			
2018	瑞穂区	オレンジリボン活動	毎年11月にバロー瑞穂店とフィール堀田店において、瑞穂区役所とともに「子ども虐待防止」の象徴として「オレンジリボン」を広める市民

			運動を行っている。
		瑞穂区民まつり	8月4日(土)開催の瑞穂区民祭りに現代幼児教育学科の学生がブースを出し、地域の子どもたち向けの手作り教室を行った。
		男の料理教室	瑞穂区西部いきいき支援センターにおいて、11月1日(木)に「男の料理教室」(講師:横山洋子先生)を開催し、38名の参加があった。
名古屋市との連携	大学連携講座	12/15(土)に本学にて成田徹男先生を講師に招き、「日本語と文字」の講座を行い、47名の参加があった。	
2019	瑞穂区	オレンジリボン活動	毎年11月にバロー瑞穂店とフィール堀田店において、瑞穂区役所とともに「子ども虐待防止」の象徴として「オレンジリボン」を広める市民運動を行っている。
		男の料理教室	瑞穂区西部いきいき支援センターにおいて、11月21日(木)に「男の料理教室」(講師:横山洋子先生)を開催し、23名の参加があった。
		瑞穂区選挙管理委員会期日前投票学生ボランティアの実施(オイス総合コース学生)	衆議院選挙期日前投票「瑞穂区役所会場」の投票所受付として学生ボランティアとして参加した。
		養護教諭コース(1・2年)学生による瑞穂区小中特別支援学級卒業生を祝う会に参加	瑞穂区役所福祉課との連携事業として、瑞穂区内の特別支援学級卒業を励ます会に参加した。
		養護教諭コース(2年)学生による瑞穂区小学校にて保健室ボランティアの実施	瑞穂区内小学校にて、学校組織を知り、保健室で実際行われている業務を理解し、将来の職業形成につなげるため実施。
		さくらひろばへの参加(現代幼児教育学科)	瑞穂区主催の子育てサロン「さくらひろば」へ現代幼児教育学科学生が参加。
	瑞穂区将来ビジョンを語る会参加	瑞穂区の将来を考える学生ミーティングに参加した。(短大生、大学生)参加	
名古屋市との連携	大学連携講座	12/14(土)に本学にて荒川直江講師による「生活習慣予防のポイント」～食生活の振り返りと食事のポイントについて～の講座を行い、35名の参加があった。	

(3) 大学・短大・高校各組織内において専攻コース相当の単位で、当該単位における特徴を活かした地域貢献活動をする。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

各専攻の特徴を活かし、地域貢献の一環として下記の講座を開催した。

年度	生活文化専攻	食物栄養専攻	現代幼児教育学科
2016			
2017			
2018	11/25(日)	8/21(火)	6/24(日)

	第2回 みずほ日曜講座 講師：落合高仁先生 講義名：写真家と光～ポートレートの面白さと撮影技法～ 参加者数：34名	家庭科教諭 食品加工講習会 講師：水野早苗先生、横山洋子先生 講義名：イモを使った加工品 実習名：「こんにゃく」「じょうよ饅頭」 実験名：「酵素的褐変」 参加者数：34名（愛知県内公立・私立家庭科教員）	第1回 みずほ日曜講座 講師：鈴木安由美先生 講義名：暮らしの中の木工芸～天然木でコースター作り～ 参加者数：36名
			7/14（土） 第1回 みずほ・げんキッズ 講師：現代幼児教育学科教員 参加者数：子ども40名、保護者31名、家族数25名
			11/17（土） 第2回 みずほ・げんキッズ 講師：現代幼児教育学科教員 参加者数：子ども15名、保護者12名、家族数10世帯
2019	11/17（日） 第2回 みずほ日曜講座 講師：酒井 正子先生 講義名：奄美島唄の世界 参加者数：82名	8/20（火） 家庭科教諭 食品加工講習会 講師：水野早苗先生、横山洋子先生 講義名：野菜の加工品 実験名：野菜の色の実験 参加者数：30名 （愛知県内公立・私立 家庭科教員）	6/2（日） 第1回 みずほ日曜講座 講師：鈴木安由美先生 講義名：伝承おもちゃの世界～パタパタ動く、かわり屏風作り～ 参加者数：12名
			6/22（土） 第1回 みずほ・げんキッズ ゲスト講師：音楽で「つながる」会CAPRICE タイトル：「0歳から一緒に楽しもう♪親子のためのオペラ」 参加者数：40名（親子）
			11/16（土） 第2回 みずほ・げんキッズ 講師：現代幼児教育学科教員 参加者数：97名（親子）

## 6 大学・短大における入試対策

(1) 「学力の3要素」による評価の視点に立って具体化したアドミッション・ポリシーについて、高等学校における新指導要領を踏まえた現場にわかり 易い表現であるか検証する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

アドミッション・ポリシーについては、2018年度および2019年度入試要項の作成に伴い学科・専攻で見直し、入試・広報担当および委員会でも再検討を実施した。高校生視点・入試視点・学科視点でチェック・改変を入れている。

2018年度から2019年度にかけて、「生物を学んでくることが望ましい」の表現を高校の進路との情報交換および入学生の実態から誤解を招く表現、実態に合わないとして削除した。

新指導要領との関連については、高大連携委員会を通じて、高校教諭との話合いの中で検証し



ている。

(2) 入学者選抜方法を「学力の3要素」に対し、多面的・総合的に評価するための方法及びその比重を配慮したものになっているか検証する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成31年度入試要項の作成時点で検証・改変を行い、学力の3要素と入試項目の対応表を作成済みである。平成31年度入試の比率についての振り返りは入試広報委員会での総括において行う。

(1) 面接

面接応答、志望理由書 (本学 AP 2)

委員会活動、資格、皆勤 (本学 AP 4)

(2) 志望理由書

論旨の明確さ(文章のわかりやすさ)、表現力(誤字・脱字・仮名遣い・品性、語彙の豊かさ)、文章の状態(文章量、文字の丁寧さ)(本学 AP 2)

(3) 調査書

評定平均値 (本学 AP 1)

平成30年度より共通テスト検討プロジェクトにおいて検討を続けており、平成32年度に最終段階となる。

## 令和元年度

個別選抜(プロジェクトチーム)にて以下のとおり検討を行った。

1. 調査書(文科省が改訂したもの)
  2. 活動報告書(文科省が例示したもの)
  3. 大学入学希望理由書、学修計画書→志願者自らの意思による公募制という性格にかんがみ、本人の記載する資料を積極的に活用する。
  4. 小論文(奨学生入試、学校選抜型入試、総合型選抜入試、社会人入試、自己推薦入試)にて実施
  5. 面接※1～5を用いて、多面的に学生を評価する。
- ◎入試区分別選考方法と評価する能力候補の対応表の利用
    - ・入試区分ごとに、本学の AP①～⑤の評価する能力の候補を策定
  - ◎入試ガイドの作成
    - ・入試区分ごとに選考方法の評価基準表を受験生にわかりやすく提示する。
  - ◎募集要項の修正
    - ・活動報告書、小論文テーマについて受験生にわかりやすく提示する。
  - ◎評価方法
    - ・小論文 ルーブリックの作成(「科学的思考」に関するもの)
  - ◎高校サイドに関すること
    - ・本学の判評価準を学生募集要項等で公表する。

- ・各評価方法の評価基準と、その比重について、学生募集要項、HPなどで公表する。

◎一般選抜入試の改善

一般前期

- ・小論文 思考力判断力表現力を問う問題を含む（必修）試験時間 50 分
- ・学科試験の改善 試験時間 50 分  
国語(古文・漢文除く)（必須）  
「生物基礎、保健体育（保健編）、数学Ⅰ」から1科目選択

一般後期

- ・学科試験の改善（国語(古文・漢文除く。思考力判断力表現力を問う問題を含む)

共通テストの利用

- ・下記に示す教科・科目のうち高得点の1教科・1科目を使用する。  
「国語（近代以降の文章のみ）」  
「数学」（数学Ⅰ・(数学Ⅰ・数学A)・(数学Ⅱ)・(数学Ⅱ・数学B)）  
「英語（リスニングは除く）」  
「理科」（物理）・(化学)・(生物)・(物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2科目)

- (3) 多面的・総合的な評価による入学者選抜方法を支える体制として、入試センターを設置する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成 29 年度 4 月 1 日付け理事長裁定「瀬木学園入試センター設置要領」に基づき、入試センターを設置した。現在は、その任を高大連携委員会が担っている。

- (4) 中期的な政策目標として、収容定員の充足を目指す。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

入学定員を確保し、収容定員の充実を図っている。

令和元年度

社会人入試の充実

社会人入試向けの募集要項を作成

社会人に向けて、学びなおしの一環として平成 30 年度より専門教育訓練給付実施校としての PR の実施、栄養士、保育士の資格支援を行っている。

東海地区の映画館にて社会人入試 CM を作成し PR

- (5) 志願して入学に至らなかった学生を対象に原因を追求し、その改善に努め、歩留り率の向上に努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

辞退者および入学に至らなかった学生については、本人との直接のやりとり、および高校教諭への訪問・電話連絡などでつぶさに理由を確認しており、対処できる理由については、今後の広

報活動に反省事項として共有し対策を練る。

年度	入試区分	人数	主な理由
2018	A0入試Ⅱ期	1	指定校入試に切り替え2名
	A0入試Ⅲ期	2	進路変更
	A0入試Ⅴ期	1	他入試で入学
	公募推薦	1	金銭的理由
	自己推薦	1	他大学を選択
	専門・総合学科	1	不明
	一般入試(前期)	7	他学校を選択
	一般入試(後期)	1	不明
	センター利用(前期)	6	他入試で入学等
社会人	1	他大学を選択	
2019	奨学生	1	
	公募推薦(前期)	3	他大学を選択(距離等)
	公募推薦(後期)	3	他大学を選択
	専門・総合学科(前期)	1	
	専門・総合学科(後期)	1	他大学を選択
2020	指定校	1	他大学を選択
	A0入試	1	他大学を選択

## 7. 基本計画を支える財政

学校法人として、公共性・倫理性の高い使命を意識し、基本計画に 基づく教育研究等の諸活動実現を支えるための基本的な姿勢として

- (1) 収容定員の充足を目指し、教育環境の充実に努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

幼稚園教諭二種免許状が、本学で取得できるよう認可を受けた。オフィス総合コースにおいて、取得できる資格を増やし、社会寄与の場も広がった。

- (2) 私立大学等改革総合支援事業(特別補助金)に示される教育改革に積極的に取り組み、採択を目指し、学内改善を進める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成28年度～平成30年度毎年採択を目指し、学内改善を進め、採択に繋げた。

令和元年度

私立大学等改革総合支援事業(特別補助金)タイプ1が採択された。

教育に質に関する客観的指標について検討(一般補助)

①「学力の3要素」に基づく入学者選抜方法を実施する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成29年度入試から、学力の3要素の評価に各入試判定項目がどのように適応しているかを入試広報委員会にて、分類・取捨選択し、対応表にまとめた。

プロジェクトチームにより、個別選抜（総合型選抜・学校推薦型選抜）実施における本学の課題を検討した。本学の既存の入試では、3つの学力「知識・技能（特に技能）」（本学AP1）、「主体性・多様性・協働性（特に協働性）」（本学AP4）を測る試験が欠けている。これについて、調査書および活動報告書の項目を追加することで対応することとし、追加項目は、学科の特徴を反映するため、学科ごとに項目を作成する。各学科専攻コースから提出された調査書・活動報告書の追加項目等は、「知識・技能（特に技能）」に関する追加項目は調査書・活動報告書の項目で網羅できる。しかし、学科専攻コースによって、重視するところが異なるため、調査書に「特に詳細に記載してほしい項目を示すようにする。個別選抜における残された課題として、「建学の精神」の根底にある人間性・資質を問うような課題の考案、「主体性・多様性・協働性（特に協働性）」を測る試験（グループ面接など）があり、引き続き検討する。

②①において実施した入学者選抜方法に対し、追跡調査法を検討し、その評価をフィードバックする。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	

毎年、卒業生における「入試×GPA×就職×退学等のクロス集計」と「データ傾向の読み取りを行い、入試広報委員会にて共有・意見交換を行っている。課題については随時改変するなど対応も実施した。（平成31年度入試において、AOⅤ期を廃止し、自己推薦Ⅱ期に変更など）

③地域貢献（地方自治体との連携、地方企業等への就職率、地方企業におけるインターンシップ増）に努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

1) 瑞穂区との連携 (PD)

- ・平成30年6月27日に瑞穂区と瀬木学園が連携協定を締結した。
- ・第54回瑞穂区小中学校特別支援教育児童生徒作品展（12/10-16）へ12名（短大10名）ボランティア活動参加
- ・平成30年度瑞穂区小中学校特別支援学級卒業式参加（2/13：短大17名参加）

2) インターンシップ (PDCA)

- ・単位型インターンシップ17名参加（昨年度13名）。8社参画企業開拓（内6社新規受け入れ企業）自由応募型インターンシップ3名参加（昨年度8名）と参加数は減少した
- ・瑞穂高校、みずほ短大、みずほ大学の各3名が1チームで（株）コムラインでの商品開発コラボインターンシップに参加し、瑞穂高校生開発の商品が1か月間で5509皿販売。名古屋TVにてインターンシップの様子が2回放映された。

### 3) 愛知企業家同友会との連携

平成 28 年 3 月に連携協定を締結した。

(3) 申請予算内容を執行するにあたり、費用対効果を意識し、効果的な取組を検討する。

Y	P	D	C	A
	○	○		

平成 28 年度より予算編成時に、組織別ヒアリングを行い、予算の妥当性や費用対効果についての検証を行っている。

#### 令和元年度

運営委員会にて、各学科長及びコース代表者による、予算申請のヒアリングを実施した。

次年度に向けて、さらに学科ごとの費用対効果を分析する。

## 8. 大学・短大・高校の有機的連携

(1) 入学選抜方法の構築にあっては大学・短大・高校による合同委員会として 入試センターを設置する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成 29 年度 4 月 1 日付け理事長裁定「瀬木学園入試センター設置要領」に基づき、入試センターを設置した。平成 30 年度は、高大接続の視点からを高大連携委員会にて、瑞穂高校に大学・短大の選抜方法を説明した。

(2) 学園内指定校推薦による入学者の入学時対応及び入学後の活動について、入試センターで情報を共有する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

キャリアセンター長を中心に、学園内指定校（および指定校以外の入学予定者についても）事前プログラムを実施し、基礎学力・上級学校への就学意識の向上、ピアノレッスン（現代幼児教育学科）、キャリア教育などを実施し、その結果について高大連携委員会にて共有されている。

#### 令和元年度

瑞穂高校との教育連携講座の実施

今年度は、生活インフォメーション 3 年生（家庭科授業）を対象に、食物栄養専攻講座と現代幼児教育学科講座を実施した。

次年度は、生活インフォメーション 2 年生を対象とする他、他クラスでの実施を視野にいれ、検討を重ねている。

(3) 再課程認定申請の準備組織として教職センターを設置する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成29年度より検討を重ね、平成30年度に再課程認定申請し認可を受けた。同時並行にて、「愛知みずほ大学・愛知みずほ短期大学 教職センター規程」を制定し、平成31年度設置に向けて準備を行った。

令和元年度

「愛知みずほ大学・愛知みずほ短期大学 教職センター」を設置し、高校・大学・短大との連携強化、また、教職センター研修会として以下の研修会の実施、今後も引き続きシリーズ研修会として実施予定

第1回 令和2年2月13日(木)

高大連携・接続の質を向上させるカリキュラム開発と授業像

講師 名古屋大学名誉教授・元教育学部長

神奈川大学特別招聘教授 安彦 忠彦氏 (元中央教育審議会委員)

(4) 学長および校長は教職員が発言しやすい環境づくりに努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

委員会やWGにおいて、教職員が発言しやすい環境を整え、必要に応じて全体会を開催するなど、意思の疎通を図れるよう努めている。

また、平成30年度よりハラスメント委員会を設置するとともにハラスメント相談体制を整えた。

令和元年度

短大の教職員との積極的な意見交換を実施

全体会を9/7(土)に開催し、以下の内容を教職員全体で検討した。

- ・今後の短大の強みについて(班ごとに積極的に検討し、内容を後日学長に提出)